

平成19年10月31日午後、本学学生会館山田ホールにて学生、教職員を始め、同窓会、後援会及び地域の方々158名の参加のもと「大学懇談会」が開催されました。

今回は各学生団体選出の実行委員を中心に企画・運営し、開かれた大学、地元に着した大学を目指して大学にかかわる様々な人が交流する場として、平成14年度から開催されていた「全学懇談会」をリニューアルしました。懇談会のテーマは、実行委員会でも何回も話し合ってきたのとおり決定され、教育、文化等6つのブースを設け、1テーマごとに席替えするスタイルとし、和やかな雰囲気づくりにケーキとソフトドリンクを用意しました。

- ① 教育 「ゆとり教育(学力低下)」
「教師と保護者」
- ② 文化 「大人×子供」ここが好き、ここが嫌い」
「文化遺産と教育」
- ③ 奈教 「奈良教の授業・カリキュラム」
「学校生活全般——大学祭、掲示版——」
- ④ 国際 「お国自慢をしよう」
「他国の常識と異文化理解」
- ⑤ 社会(身近) 「今の裁判制度って」
「最近の就職事情」
- ⑥ 社会(グローバル) 「憲法9条の是非」
「国単位での環境問題への取り組み」

②文化 「大人×子供」ここが好き、ここが嫌い」のブースでは、自治会長さんを始め、地域の方が9名参加いただき、広辞苑が改定されたことを話題に上げ、実際に追加された言葉を序列していった。昔からあるのに新たに記載された言葉(例…絵手紙、デパ地下)や、方言(例…めっちゃ)の記載までもが見られた。それらの言葉はいつでもどこから発祥するのか、どうして生まれてきたのかなどが話し合われた。うざいは、うざうざという意味であるが、どうして「うざい」という言葉がわざわざ使われるようになってきたのか? 同じ意味であるなら

第1回大学懇談会に 地域の方が参加

大学懇談会実行委員会委員長 (学生代表)

旧田 克也

「うざうざ」という言葉だけで十分ではないか。というような感じで話しが進み、地域の方からは「昔もつかっていたなあ」など世代を越えた意見交換が行われた。どのテーブルも制限時間をオーバーするほど盛り上がり「教職員の方や地域の方と話す機会ができてよかった」、「子育て世代として、奈良育大学の学生が前向きに教育のことを考え、良くしようとする姿を見て大変喜ばしかった」、「学生に足りないこと、学生が大学に求めていることなどお互いに話し合うことができてよかった」、「学生さんと懇談する中で、お互いを知り共にこの地区をよりよいものにしていくきっかけがもてた」、「このような機会をもっと増やして欲しい」などの感想が寄せられた。学生同士、学生と教職員、また卒業生や保護者、地域の方々と自由に語り合い、交流が深めるとともに学生等の声を聞くことよって大学の活性化につながる目的を達成するために、今後はアンケートの集計結果、実行委員のレポート等を大学ホームページで順次報告していく予定です。



実行委員会委員長の挨拶



地域の方と学生の活発な意見交換 (②文化)